

院内ラウンドの実際 — ICT ラウンドの秘訣—

阿島 美奈 (独)国立病院機構 大阪医療センター
感染管理室専任 看護師長

【はじめに】当院は、病床数 698 床を有する、高度急性期医療、国の政策医療を担う施設である。当院の ICT 設置は 2001 年からであり、2004 年からは感染管理室が設置され専任の感染管理担当者（感染管理認定看護師）が配置された。感染管理室や ICT の役割は多い。ICT ラウンドに関しては、週 1 回実施。効果的な感染対策の実施には現場の協力が不可欠であり、現場での感染対策の実施状況や医療環境やケア場面など様々な視点でラウンドし、結果のフィードバックや現場との問題点の共有をはかり改善につなげるのが重要である。

【ICT ラウンドチェック項目の実際】

1. ケア・処置行為

手指衛生の遵守状況、包交場面、感染経路別予防策実施状況、防護具の取り扱い方法

2. 環境

スタッフステーションの清潔・不潔領域、清掃状況、水周り衛生、手洗い環境、処置ワゴンや包交車の整備状況、

3. 感染性廃棄物取り扱い

感染性廃棄物廃棄状況、保管状況など

【ICT ラウンド方法】

週 1 回 ICT メンバーで全病棟ラウンド

事前に ICN がラウンドチェック項目作成

チェックシートに基づいて確認やヒアリング実施

【現場ラウンド時のポイント】

1. ICT ラウンドですと挨拶して実施

2. 現場で気づいた問題点は現場のスタッフへその場でフィードバックし、情報収集や問題の共有化し改善ポイントなど指導する

3. またスタッフに指導した内容は必ず看護師長か代行者、感染リンクナースにも伝える

4. こちらが伝えたい現場での改善ポイントの指導のみではなく、現場からのコンサルテーションも受ける

5. ラウンド時に指導したことが改善された点に関してはねぎらい、今後の継続をお願いする

【評価】1つの項目に対して実施した内容は日を空けて、改善されているかを必ず再度 ICT ラウンドを実施するようにしている。ICT ラウンドの結果は、紙面にし、全病棟にフィードバックしている。特に看護単位などの場合は、職場責任者である看護師長にフィードバックし、現場改善の協力を得ている。ただし、現場での感染対策推進の困難な点は、継続性に欠けることであるため、ICT ラウンドは継続性を持ち、地道に粘り強く活動している